

平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年11月5日

上場会社名 株式会社 クラレ

上場取引所 東

コード番号 3405 URL <http://www.kuraray.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 伊藤 文大

問合せ先責任者 (役職名) IR・広報部長

(氏名) 藤波 智

TEL 03-6701-1070

四半期報告書提出予定日 平成21年11月12日

配当支払開始予定日

平成21年12月1日

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	157,065	△25.0	9,758	△58.1	9,409	△57.7	5,221	△61.1
21年3月期第2四半期	209,319	—	23,273	—	22,251	—	13,407	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	15.00	14.98
21年3月期第2四半期	38.50	38.44

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第2四半期	489,536	332,038	67.2	944.38
21年3月期	471,874	325,016	68.2	924.48

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 328,851百万円 21年3月期 321,918百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	12.00	—	10.00	22.00
22年3月期	—	8.00	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	8.00	16.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	330,000	△12.4	23,000	△21.4	21,000	△21.6	12,500	△3.7	35.90

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

詳細は、5～6ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報 をご覧ください。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注) 詳細は、6ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他 をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第2四半期 382,863,603株 21年3月期 382,863,603株

② 期末自己株式数 22年3月期第2四半期 34,644,719株 21年3月期 34,647,544株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第2四半期 348,212,265株 21年3月期第2四半期 348,242,804株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等について、及び業績予想の具体的修正内容は、5～6ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日～平成21年9月30日）の経営環境は、昨年9月のリーマン・ショック後の最悪期は脱しつつありますが、なお予断を許さない状況が続いています。当社製品の需要で言えば、中国を含むアジア市場を基盤とする事業、中でも液晶関連、LED関連素材が回復する一方で、内需や欧米市場は自動車や建材分野、日用品等汎用品向けの素材を中心に、前年同期比7～8割の需要レベルにあります。こうした中、当社は、大きく損なわれた収益構造を3年間で回復させ、新事業の創出・拡大を図り、コア事業の世界戦略を加速させることにより、10年後の企業ビジョンに描いた「存在感あるスペシャリティ化学企業」への新たな成長に踏み出すためのアクションプラン『GS-Twins』を、本年4月よりスタートさせました。当期は、何よりも先ず収益構造改善を喫緊かつ最優先の課題と位置付け、「設備投資の圧縮」「固定費の削減」「在庫削減」にグループ全体を挙げて取り組みました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は157,065百万円（前年同期比25.0%減）、営業利益は9,758百万円（同58.1%減）、経常利益は9,409百万円（同57.7%減）、四半期純利益は5,221百万円（同61.1%減）と前年同期比で減収、減益となりましたが、前期後半（平成20年10月1日～平成21年3月31日）比では減収（6.2%減）ながら、利益面では回復（営業利益62.5%増）が進みました。事業別、所在地別の状況は以下の通りです。

なお、当社の海外子会社の第2四半期連結累計期間は平成21年1月1日～平成21年6月30日となっております。

事業の種類別セグメント

事業別の状況は次の通りです。

[化成品・樹脂]

化成品・樹脂セグメントは、各事業とも中国を含むアジア市場では比較的順調に回復が進みましたが、日本国内及び欧米市場での回復は遅れ、売上高は95,058百万円（前年同期比25.5%減）、営業利益は16,772百万円（同36.6%減）となりました。

- ① ポパール事業は、全体として減収、減益となりました。ポパール樹脂は4月以降、接着剤、繊維加工剤等で中国を含むアジア市場が回復しましたが、欧州では景気の回復が遅れ、厳しい状況が続きました。光学用ポパールフィルムは、液晶パネルの需要回復に伴い前年同期の需要レベルまで回復しました。PVBフィルムは、欧州での建築市場の不振が続く、需要は低調に推移しました。
- ② EVOH樹脂<エバル>事業は減収、減益となりました。中国の自動車用途を中心に、アジア市場で需要が伸びたほか、国内も食品包装用途が底堅く推移しました。しかしながら、米国、欧州では食品包装用途、自動車用途ともに本格回復に至っておらず、需要停滞が続きました。
- ③ メタクリル樹脂事業は減収、減益となりました。成形材料はパソコンの導光体向けで回復が進み、モノマーも中国向け輸出が回復基調となりましたが、シートは国内の看板・ディスプレイ用途等汎用分野での不振が続きました。
- ④ イソプレン事業は、減収、減益となりました。熱可塑性エラストマー<セプトン>は、中国向けの自動車用途等を中心に、アジア市場での販売が上向きましたが、米国、欧州では回復が鈍く、苦戦が続きました。化学品・ファインケミカルはアジア市場での回復は進みましたが、全般に本格回復には至りませんでした。

[繊維]

繊維セグメントは、主力のビニロン、人工皮革<クラリーノ>の需要不振の影響が厳しく、売上高は38,574百万円（前年同期比24.5%減）営業損失は1,263百万円（前年同期は2,801百万円の利益）となりました。

- ① ビニロンは、欧州を主な市場としているアスベスト代替のFRC（繊維補強セメント）用途が、建築分野の落ち込みで需要不振が続きました。
- ② <クラリーノ>は、米国のインテリア、欧州の衣料、アジアの靴用途市場などが大幅に落ち込み、厳しい状況が続きました。
- ③ 不織布は、新型インフルエンザ対策としてのマスク等衛生材料需要が増加し、業績は回復しました。面ファスナーは、流通在庫の調整等により需要は低調でした。
- ④ 高強度繊維<ベクトラン>は海底油田用探索ロープ等米国での需要が振るわず、減販となりました。ポリエステルは、衣料用途、産業資材用途ともに需要不振が続きました。

[機能材料・メディカル他]

機能材料・メディカル他セグメントは、比較的堅調な事業が多いものの景気低迷の影響を受け、売上高は 23,432 百万円（前年同期比23.5%減）営業利益は 1,533百万円（同40.5%減）となりました。

- ① メディカル事業は、減収、減益となりました。歯科材料は景況の悪化の影響を受け、国内中心に数量が伸び悩みました。
- ② 耐熱性ポリアミド樹脂<ジェネスタ>は前年同期並みの売上高となりました。バックライトにLEDを搭載した液晶テレビ等に使用されるLED反射板用途の需要を新たに開拓しました。
- ③ 活性炭事業をはじめ、その他事業は比較的底堅く推移しました。

なお、消去又は全社に含めた配賦不能営業費用は 1,244百万円減の 7,452百万円となりました。

所在地別セグメント

所在地別の状況は次の通りです。

[日本]

光学用ポパールフィルムは回復が進みましたが、メタクリル樹脂、繊維等全般に不振で、売上高は 112,903百万円と減収となりました。

[北米]

景気回復の遅れを反映し、<エパール>、<セプトン>、<クラリーノ>、<ベクトラン>ともに減収となり、売上高は 10,579百万円と減収となりました。

[欧州]

建築分野をはじめとする景気悪化の影響を受け、ポパール樹脂、PVBフィルム、<エパール>、ビニロンの回復が遅く、売上高は 26,149百万円と減収となりました。

[アジア]

ポパール樹脂は回復基調にありますが、1月～3月の不況期を反映し、売上高は 7,432百万円と減収となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

資産、負債及び純資産の状況

総資産は、流動資産の増加等により前連結会計年度末比 17,661百万円増の 489,536百万円となりました。負債は、借入金増加等により、前連結会計年度末比 10,639百万円増の 157,497百万円となりました。純資産は、前連結会計年度末比 7,022百万円増加し、332,038百万円となりました。自己資本は 328,851百万円となり、自己資本比率は 67.2%となりました。

キャッシュ・フローの状況

[営業活動によるキャッシュ・フロー]

税金等調整前四半期純利益 8,142百万円、減価償却費 16,976百万円及びたな卸資産の減少 13,787百万円などの収入に対し、売上債権の増加 5,396百万円などの支出で、営業活動によるキャッシュ・フローは 38,327百万円の収入となりました。前年同期比では 15,370百万円収入が増加しました。

[投資活動によるキャッシュ・フロー]

有形及び無形固定資産の取得 13,016百万円、有価証券の純増 51,988百万円などの支出で、投資活動によるキャッシュ・フローは 73,884百万円の支出となりました。

[財務活動によるキャッシュ・フロー]

長期借入金 12,000百万円の収入に対し、配当金の支払 3,482百万円、コマーシャル・ペーパーの償還 3,000百万円、短期借入金の返済 2,584百万円などの支出で、財務活動によるキャッシュ・フローは 2,665百万円の収入となりました。

以上から、当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローは、合計で 32,892百万円の支出となり、その結果、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末より 32,698百万円減少して 13,459百万円となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間は液晶向け材料の回復、コスト削減等の内的努力により、売上高は未達ながら、利益は予想を上回りました。

通期業績予想については、一部事業の回復の遅れや、円高及び原燃料価格高騰の影響が想定されるものの、総じて前半の増益基調が今後も続くことと予想されることから、以下の通り修正します。

平成22年3月期 連結業績予想数値の修正（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益	
	百万円	百万円	百万円	百万円	円	銭
前回発表予想（A）	340,000	20,000	17,000	10,500	30	15
今回修正予想（B）	330,000	23,000	21,000	12,500	35	90
増減額（B－A）	△10,000	+3,000	+4,000	+2,000	—	
増減率（%）	△2.9%	+15.0%	+23.5%	+19.0%	—	
前期（平成21年3月期）実績	376,777	29,280	26,797	12,984	37	29

各事業の期後半の前提は以下の通りです。

ポバール樹脂はアジアでの需要回復が進む一方で、欧州は厳しい状況が続く見込みです。光学用ポバールフィルムは堅調に推移する見込みで、増設した倉敷事業所の新ライン（年産1,500万㎡）を稼働させる予定です。＜エバール＞はアジア、国内需要の回復基調は持続するものの、欧米は回復のペースが遅いと見ています。メタクリル樹脂は導光体等での回復が進む見込みです。イソブレンは、エラストマー、化学品・ファインケミカルとも、アジアでの市況回復は続きますが、欧米での回復は鈍いと見ています。

ビニロンはFRC用途が回復に転ずる見込みですが、本格化には時間がかかると見ています。＜クラリーノ＞は靴、衣料等の需要は回復せず、厳しい状況が続く見込みです。なお、次世代環境対応型人工皮革の量産プラント稼働を開始し、市場開拓を進めます。

メディカルは堅調に推移、＜ジェネスタ＞はLED反射板用途の続伸と電気・電子材料の回復を見込んでいます。

なお、当社プラントの定期修理は当第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日～平成21年9月30日）に集中しており、当期後半（平成21年10月1日～平成22年3月31日）はその影響が減少します。当期後半の原燃料価格は、国産ナフサを43千円/k1と想定します。原燃料価格高騰に対しては、鋭意価格改定を進めますが、利益への影響は避けられない見通しです。平均為替は米ドル90円、ユーロ135円と想定しています。

平成22年3月期 連結業績予想数値（事業の種類別セグメント内訳）

売上高 (百万円)

	化成品・樹脂	繊維	機能材料・ メディカル他	合計
第2四半期連結累計期間実績	95,058	38,574	23,432	157,065
通期予想	200,000	80,000	50,000	330,000

営業利益 (百万円)

	化成品・樹脂	繊維	機能材料・ メディカル他	消去又は全社	合計
第2四半期連結累計期間実績	16,772	△1,263	1,533	△7,283	9,758
通期予想	36,000	△2,500	3,500	△14,000	23,000

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①簡便な会計処理

連結財務諸表における重要性が乏しい一部の連結子会社は、四半期財務諸表における税金費用の計算にあたり、税引前四半期純利益に前年度の損益計算書における税効果会計適用後の法人税等の負担率を乗じて計算しています。

②四半期連結財務諸表作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	20,002	37,527
受取手形及び売掛金	72,752	66,551
有価証券	53,995	9,499
商品及び製品	43,194	51,294
仕掛品	8,415	10,145
原材料及び貯蔵品	9,434	12,112
繰延税金資産	5,304	5,493
その他	7,039	9,248
貸倒引当金	△571	△514
流動資産合計	219,568	201,358
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	34,302	34,832
機械装置及び運搬具（純額）	98,589	102,536
土地	18,922	18,918
建設仮勘定	24,350	21,188
その他（純額）	3,357	3,544
有形固定資産合計	179,523	181,020
無形固定資産		
のれん	19,708	19,684
その他	3,761	3,835
無形固定資産合計	23,470	23,520
投資その他の資産		
投資有価証券	48,890	47,505
長期貸付金	1,380	983
繰延税金資産	5,507	5,616
前払年金費用	6,938	7,128
その他	4,803	5,230
貸倒引当金	△546	△490
投資その他の資産合計	66,974	65,974
固定資産合計	269,967	270,515
資産合計	489,536	471,874

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	24,177	23,438
短期借入金	20,112	18,464
コマーシャル・ペーパー	—	3,000
未払法人税等	3,268	684
賞与引当金	5,574	5,753
その他の引当金	281	377
その他	16,565	17,323
流動負債合計	69,980	69,041
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	47,329	39,280
繰延税金負債	5,595	5,318
退職給付引当金	14,255	13,933
役員退職慰労引当金	162	171
その他	10,173	9,112
固定負債合計	87,517	77,816
負債合計	157,497	146,858
純資産の部		
株主資本		
資本金	88,955	88,955
資本剰余金	87,208	87,215
利益剰余金	195,716	193,977
自己株式	△40,895	△40,903
株主資本合計	330,984	329,244
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,689	2,825
繰延ヘッジ損益	△85	△156
為替換算調整勘定	△5,736	△9,995
評価・換算差額等合計	△2,133	△7,326
新株予約権	186	109
少数株主持分	3,000	2,988
純資産合計	332,038	325,016
負債純資産合計	489,536	471,874

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	209,319	157,065
売上原価	148,504	115,433
売上総利益	60,815	41,632
販売費及び一般管理費		
販売費	10,916	8,208
一般管理費	26,625	23,664
販売費及び一般管理費合計	37,542	31,873
営業利益	23,273	9,758
営業外収益		
受取利息	204	190
受取配当金	950	961
持分法による投資利益	—	9
その他	482	649
営業外収益合計	1,637	1,810
営業外費用		
支払利息	458	706
持分法による投資損失	7	—
その他	2,193	1,453
営業外費用合計	2,659	2,160
経常利益	22,251	9,409
特別利益		
投資有価証券売却益	1,264	—
特別利益合計	1,264	—
特別損失		
構造改善特別損失	—	1,033
投資有価証券評価損	54	173
減損損失	153	59
たな卸資産評価損	1,153	—
固定資産廃棄損	107	—
特別損失合計	1,469	1,266
税金等調整前四半期純利益	22,046	8,142
法人税、住民税及び事業税	6,037	2,864
法人税等調整額	2,513	18
法人税等合計	8,550	2,882
少数株主利益	88	38
四半期純利益	13,407	5,221

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	22,046	8,142
減価償却費	17,183	16,976
減損損失	153	59
固定資産廃棄損	107	—
投資有価証券売却損益(△は益)	△1,264	—
投資有価証券評価損	54	173
たな卸資産評価損	1,153	—
売上債権の増減額(△は増加)	1,368	△5,396
たな卸資産の増減額(△は増加)	△4,495	13,787
仕入債務の増減額(△は減少)	△2,456	257
その他	△3,768	1,701
小計	30,084	35,703
法人税等の支払額	△8,751	—
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	—	2,073
その他	1,623	551
営業活動によるキャッシュ・フロー	22,956	38,327
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額(△は増加)	—	△7,671
有価証券の純増減額(△は増加)	—	△51,988
有形及び無形固定資産の取得による支出	△20,469	△13,016
投資有価証券の取得による支出	△3,643	△430
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	1,533	—
その他	△1,207	△777
投資活動によるキャッシュ・フロー	△23,786	△73,884
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	1,625	△2,584
コマーシャル・ペーパーの増減額(△は減少)	—	△3,000
長期借入れによる収入	4,266	12,000
配当金の支払額	△3,830	△3,482
その他	△307	△267
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,753	2,665
現金及び現金同等物に係る換算差額	△23	193
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	899	△32,698
現金及び現金同等物の期首残高	12,189	46,157
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	687	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,776	13,459

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報
〔事業の種類別セグメント情報〕

前第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日） (百万円)

	化成品・ 樹脂	繊維	機能材料・ メディカル他	計	消去又は 全社	連結
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	127,583	51,123	30,612	209,319	—	209,319
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	96	301	5,336	5,734	(5,734)	—
計	127,680	51,425	35,948	215,053	(5,734)	209,319
営業利益	26,435	2,801	2,579	31,815	(8,542)	23,273
資産	288,397	80,267	68,666	437,331	59,895	497,227
減価償却費	12,106	2,718	1,285	16,109	1,074	17,183
資本的支出	8,853	4,380	5,299	18,533	1,243	19,777

当第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日） (百万円)

	化成品・ 樹脂	繊維	機能材料・ メディカル他	計	消去又は 全社	連結
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	95,058	38,574	23,432	157,065	—	157,065
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	79	203	3,331	3,614	(3,614)	—
計	95,138	38,778	26,763	160,680	(3,614)	157,065
営業利益又は営業損失 (△)	16,772	△1,263	1,533	17,042	(7,283)	9,758
資産	235,856	72,024	60,477	368,358	121,177	489,536
減価償却費	10,401	3,131	2,319	15,853	1,123	16,976
資本的支出	6,458	3,143	728	10,330	946	11,277

(注) 1. 事業区分は、売上集計区分によっています。

2. 各事業の主な製品

- (1) 化成品・樹脂 ……ポバール樹脂・フィルム、PVB樹脂・フィルム、エチレンビニルアルコール樹脂〈エバール〉、イソプレン、ファインケミカル、メタクリル樹脂、樹脂加工品他
- (2) 繊維 ……ビニロン、人工皮革〈クラリーノ〉、乾式不織布〈クラフレックス〉、面ファスナー〈マジックテープ〉、ポリエステル、テキスタイル他
- (3) 機能材料・メディカル他 ……メディカル製品、機能材料、活性炭、高機能膜、エンジニアリング他

[所在地別セグメント情報]

前第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）

（百万円）

	日本	北米	欧州	アジア	計	消去又は 全社	連結
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	140,960	15,088	42,108	11,162	209,319	—	209,319
(2)セグメント間の 内部売上高又は振替高	14,364	2,899	1,917	1,433	20,615	(20,615)	—
計	155,324	17,988	44,025	12,596	229,934	(20,615)	209,319
営業利益	25,859	978	4,029	324	31,191	(7,918)	23,273

当第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

（百万円）

	日本	北米	欧州	アジア	計	消去又は 全社	連結
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	112,903	10,579	26,149	7,432	157,065	—	157,065
(2)セグメント間の 内部売上高又は振替高	9,910	1,715	1,061	610	13,299	(13,299)	—
計	122,814	12,295	27,210	8,043	170,364	(13,299)	157,065
営業利益又は営業損失 (△)	16,173	578	561	△71	17,242	(7,483)	9,758

(注) 1. 国又は地域は、地理的近接度により北米、欧州、アジアに区分しています。

2. 各区分に属する主な国又は地域の内訳は、次の通りです。

- (1)北米 ……アメリカ
- (2)欧州 ……ドイツ、ベルギー
- (3)アジア ……シンガポール、香港、中国

〔海外売上高〕

前第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）

（百万円）

	北米	欧州	アジア	その他の 地域	計
I 海外売上高	14,683	44,220	41,456	5,336	105,696
II 連結売上高	—	—	—	—	209,319
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	7.0	21.1	19.8	2.5	50.5

当第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

（百万円）

	北米	欧州	アジア	その他の 地域	計
I 海外売上高	10,047	27,833	32,890	3,560	74,331
II 連結売上高	—	—	—	—	157,065
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	6.4	17.7	20.9	2.3	47.3

（注）1. 国又は地域は、地理的近接度により北米、欧州、アジア、その他に区分しています。

2. 各区分に属する主な国又は地域の内訳は、次の通りです。

- (1) 北米 ……アメリカ、カナダ
- (2) 欧州 ……ドイツ、イギリス
- (3) アジア ……韓国、中国
- (4) その他 ……中南米地域、アフリカ地域

3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高です。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。